

「体の不自由な人達を助ける義肢装具士になりたい」

入門先：富山県リハビリテーション病院

日時：令和5年7月31日（月）9：00～15：00頃

講師：森田事務局次長、峰松医師、義肢装具士の皆さん

【短期入門の概要】

- ・ 午前の部
 - 1 義肢・装具の製作－採型について－
 - 2 技師装具士の皆さんへの質問、患者様との対話
- ・ 午後の部
 - 3 富山県リハビリテーション病院のリハビリ現場の見学
 - 4 リハビリ病院の役割のレクチャー

1 義肢・装具の製作－採型について－

- ・ 採型とは、義肢や装具を作る際に欠かせない型取りのことです。義肢や装具のサイズや形、装着する部分が患者様でそれぞれ違うため、製作の最初に行うとても大切な作業です。
- ・ 今回は採型の方法の一つである石膏包帯を教えてくださいました。
- ・ 石膏包帯とは？

石膏をしみこませて、乾燥させた包帯のことです。
- ・ 石膏包帯を使った採型の仕方、手順
 - 1 患者さんの足や手が汚れないようにラップをします。
 - 2 傷があるところや、皮膚のすぐ下に骨があるところには目印を付けて、慎重に作業します。
 - 3 ラップの上から、水を含み柔らかくなった石膏包帯を巻きつけます。（実は、巻くのにも技術が必要で、とても難しい作業だという話を聞きました。）
 - 4 石膏包帯が固まるのを待ちます。（温度や種類により固まる時間が違います。）
 - 5 患者様の足や手を傷つけないように硬く固まった石膏包帯を切開します。（石膏包帯を、抜き取る場合もあります。）
 - 6 切開した際は、その上からもう一度、石膏包帯で型を固めます。
- ・ 義肢や装具自体に目が行きがちでしたが、最初の採型が物の良し悪しを決めるとても重要な作業だということを教えてくださいました。



2 義肢装具士の皆さんへの質問、患者様との対話

○義肢装具士の皆さんへの質問

<どのような種類の義肢、装具がありますか？>

・実例を交えながら、義肢や装具には沢山の種類があることを教えていただきました。写真に写っているのは装具の一例です。

<なぜ、こんなにも沢山の種類があるのでしょうか？>

・患者様の症状、生活スタイル、仕事場所などに合うようにするため。つまり、患者様個人に合わせてベストなものを作っていることが、分かりました。



・患者様に最適な義肢・装具を作るためには多くの情報が必要です。患者様一人一人と向き合いながら、生活スタイルや要望を上手に聞くことで、より良い義肢、装具を作っていることを知りました。

<スポーツ仕様のものと、普段使いするものとはどのような違いがありますか？>

・スポーツで使用するものと、普段使うものは、全く違うそうです。
・スポーツで使用するものは、機能を重視しています。普段使うものは、機能はもちろんですが、患者様の要望を聞きながら外見も重視します。
・どのスポーツをするかによって、重視する機能が違うため、色々な種類があることを教えてもらいました。

<どんな時に仕事にやりがいを感じますか？>

・患者様が喜ぶ姿や、回復している姿を見た時に、義肢装具士としてのやりがいを実感すると教えていただきました。

○患者様との対話

- ・足に義足を着けておられる患者様とお話をさせていただきました。
(成人女性の方：片足を切断して、義足を着けておられました。)
- ・中学生の頃までは装具を着けていて、その後、義足を着けておられました。足の病気の状態に合わせて、これまでに数回義足の種類を変えてこられたそうです。

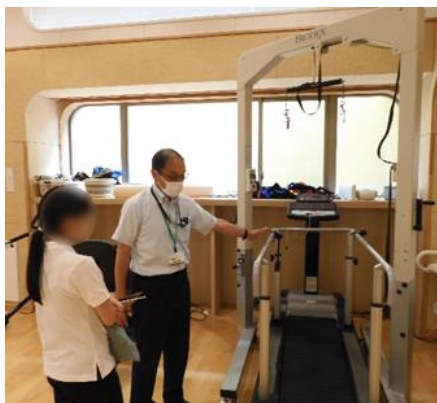
＜現在の義足についてどんな工夫があるか教えてください＞

- ・義足は、成長や生活スタイルに合わせて、調整や変更が必要です。
- ・患者様の現在の義足は、切断した足の部分をシリコンで義足に密着させてはまるように工夫されていました。
- ・さらに、より生活がしやすいような機能（右側の写真、靴を自分で履く時など前に体重をかけると、膝が曲がる）も教えていただきました。



3 富山県リハビリテーション病院のリハビリ現場の見学

- ・リハビリの中にも様々な種類があることを知りました。
(高齢者から子供まで、入院している患者様、通いの方など)
- ・リハビリで使用する道具なども、患者様に合わせて製作したり、調整したりしていて、色々なところで患者様を支えていることがよく分かりました。
- ・療法士の中にも種類があり、理学療法士、言語療法士、作業療法士など色々な職業があり、患者様が必要とすることに合わせて関わっておられました。
- ・患者様が日常生活を送れるようになるために、色々な設備や訓練があり、多くの方がサポートしていることを知ることができました。



4 リハビリ病院の役割のレクチャー

- ・ 富山県リハビリテーション病院は、福祉を中心とした病院ですが、医療に関わっている病院だと教えてくださいました。
- ・ ～障害を持った人たちをとりまく社会制度～
家庭＝医療（保険）、福祉、教育

<医療と福祉の違いについて>

- ・ 福祉：人が、快適に自分らしく暮らせるように、生きられるように社会的な支援をすること。
- ・ 医療：人間の健康の維持、増進、疾病（しっぺい）に対する診断、治療を包括的に行うこと。

<義肢装具士は、医療と福祉のどちらに関わっているのか>

- ・ 義肢装具士は医療に関係している仕事です。
(医療分野の知識や技術が必要とされる仕事)
- ・ けれど、補装具や車いす自体は福祉にも関係しています。
- ・ なぜなら、補装具や車いすは自体は、快適な暮らしのためにも、生きるためにも必要となるものだからです。



短期入門を終えて（感想）

今回の短期入門では、富山県リハビリテーション病院の皆さんに義肢装具士の仕事内容や役割を教えてくださいました。また、実際に患者様が義足を装着するところを見せていただき、義肢・装具の必要性や調整方法、これまでの苦労などを知ることができました。

義肢や装具には、沢山の種類があり、技術や、知識を身に付ける必要があると感じました。特に、最初に教えていただいた採型は、義肢・装具の良し悪しが決まる大切な作業で、何事も最初・準備が大切だということを改めて気付かせてくれました。

医師や義肢装具士の皆さんは一人一人の患者様と向き合いながら、生活スタイルや要望、気持ちなどを聞き、患者様がやりたいと思うことを日常生活で出来るよう、使用しやすくベストな義肢や装具を作ってもらっていました。技術や知識だけでなく、患者様とのコミュニケーションが求められる仕事だと思いました。また、義肢装具士以外にも色々な職業の方が義肢・装具やリハビリに関わっている事を教えてくださいました。他の職業の方とチームで取り組むことの大切さを実際の現場で感じる事ができました。

今回の短期入門では、義肢装具士の仕事の内容や役割を教えてくださいましたが、「義肢や装具に関わり、体の不自由な人たちを支え、助ける仕事がしたい」という気持ちがさらに強くなりました。技術や知識だけではなく、患者様や色々な職業の皆さんとのコミュニケーションの大切さを学びましたので、自分の夢に向い、基礎的な学力はもちろんですが、クラスや部活のみんなとのコミュニケーションを大切に、学校生活をより有意義なものにしていきたいと思いました。

